

※1話小説 もしも[暴食]  
に食べられたのはレム  
ではなくエミリアだっ  
たら…

みずのおに

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ペテルギウス・ロマネコンティとの戦いの後、「暴食」と「強欲」が奇襲！  
果たして彼女の運命や如何に？

# 目次

※1話小説 もしも「暴食」に食べられた  
のはレムではなくエミリアだったら…

1



※1話小説　もしも「暴食」に食べられたのはレムではなくエミリアだったら…

次の日の朝、スバルが起きて真っ先に行く先は、エミリアの寝室である。

スバルはあの日、大切にしたい人を守れなくてなくしている…

あの日突然、魔女教大罪司教「暴食」担当　ライ・バテンカイトスが奇襲し、スバルはエミリアをカバーしていたが、

力の大差により、あっけなく負けてロズワール邸に戻っていた。

また、レムはいる。

奇襲した時に彼は「イタダキマス！」と叫んでいた。

スバルにとって、大切な天使エミリアが食われた時からずっと絶望していて、泣いている。

また彼女のことを覚えていたレムも泣いている。

「エミリアたん…」

「エミリア様…」

「レムはエミリア様の事を、またもやスバルくんのことも忘れません

如何なる理由があろうかと。

レムはスバルくんにとつて大切な人 エミリア様を絶対に助けに行きます！」

「エミリアたん。 オレはエミリアたんを助けられなかった、

あの日いきなりやって来て、俺の力が弱いから守れなかった。」

そう2人が言つても届く先はいない。

スバルくんとレムは、エミリアの事をずっと見ている。

眠り姫になった、彼女を。

スバルくんが

「皆、エミリアたんの事を覚えてる？」

と聞いても

「誰なの？バルス？」とラム。

「知らないかしら 誰なのか教えてくれるかしら？」とベアトリス。

「おいおい、 王戦候補者じゃないのか？ 忘れたのか？」

そこでロズワールが

「誰なのかーね？ わたしも知らないよ。」と言つた。

エミリアの事を覚えてるスバルやレムにとつてはかなり傷つく。

「皆、覚えてないんだな…（；ω；）」とスバルくん

「ライ・バテンカイトスめ… 覚えてろ 必ず倒すからな  
 ?(°? ?°)」

「レムはスバルくんの大切な人を救うのを手伝います。」

それが、レムの今の役目ですから。」

レムが

「また暴食にあつた時は鬼化して暴れます。」

今のレムの怨みの相手だから」

「レム? あまり一人で鬼化するなよな!?!」

とスバルくんが言った。

「とりあえずまー あの野郎を倒す作戦を考えなきゃな。 皆に協力を求めたいが、レ

ム、何か良い策略ない?」

「2人でその人に出会った時レムが鬼化してモーニングスターで始末するのはどうでしょう?」

「それもいいな! 俺も陰属性、、 そうだ! EMTといった必殺技があるじゃん!

あいつの目の前を暗くさせればレムだつて倒しやすいはずだ!

そんな時や、ベア子もいるけどな!」

そこでレムは「EMTってなんですか?」と聞く。

「あれはな、俺がベア子の技を使えるようにするんだ。同じ影属性主だから互換性あるし、それにエミリアたんに対する愛の表現だぜ！」

レムは

「アル・シヤマクですか？ 影属性有名魔法の、」と聞くが

「そーそー！」とスバルくんが答える。

スバルくんにとって、この異世界生活の恩人、エミリアたんを無くして生活はするこ  
とが出来ない。

絶対倒してやる！